

もしものときの災害に備えて、  
日頃からご家族で確認を！

 横瀬町

保存版

防災  
ガイドブック



## はじめに

日本は世界でも有数の地震の多い国であり、近年では、平成7年1月に起きた阪神・淡路大震災をはじめ、平成19年7月の新潟県中越沖地震、平成20年6月の岩手・宮城内陸地震など、これまで甚大な被害を受けてきました。私たちの住む横瀬町で、このような大地震がいつ発生しても、決して不思議ではありません。

このような中、横瀬町では防災行政無線システムを導入し、全世帯に戸別受信機を配備するほか、自主防災組織を結成する等、万一の災害の発生に備えた取り組みを進めております。しかし、地震や風水害・土砂災害が比較的少ない本町では、住民意識として必ずしも十分な防災への心構えができていない状況にあります。災害による被害を最小限にとどめるには、まず、町民の皆さんが「自分の身は自分で守る」という意識と、「地域で協力して守る」という心構えが大切であります。そして、防災関係機関と連携を図りながら、日頃から様々な事態を想定し、避難場所や避難経路を確かめ、「もしも」という時のために備えておくことが必要です。

このガイドブックは、地震、風水害、火災に関する防災情報と、揺れやすさ、危険度を示した地震ハザードマップ、そして、避難場所、防災関係機関に関する情報を掲載しています。災害の発生に備え、ご家庭や地域での防災活動にご活用いただければ幸いです。

平成21年3月

横瀬町長 加藤嘉郎

## 目次

|   |       |
|---|-------|
| 日本で発生する地震のタイプ、<br>日本周辺のプレートと地震発生のメカニズム…………… | 1     |
| 地震への安全対策……………                               | 2     |
| 家庭内の防災チェック……………                             | 3     |
| 風水害について……………                                | 4     |
| 土砂災害について……………                               | 5     |
| 火災について……………                                 | 6～7   |
| 自治会の自主防災機能を強化しよう……………                       | 8     |
| 指定避難場所、防災関係機関、医療機関一覧……………                   | 9     |
| 地震ハザードマップ～揺れやすさマップ～……………                    | 10～11 |
| 地震ハザードマップ～地域危険度マップ～……………                    | 12～29 |

### 地震ハザードマップとは

地震による揺れやすさや液状化などの自然的要因と、建物の構造、建築年次などの社会的要因を併せることにより、大地震が発生した場合の危険度を予測し、地図上に表したものです。

# 日本で発生する地震のタイプ

地震は、断層運動によって起こり、大きく次の3タイプに分類されます。

## 1.プレート境界で発生する地震 2.プレート内で発生する地震 3.内陸部の活断層を震源とする地震

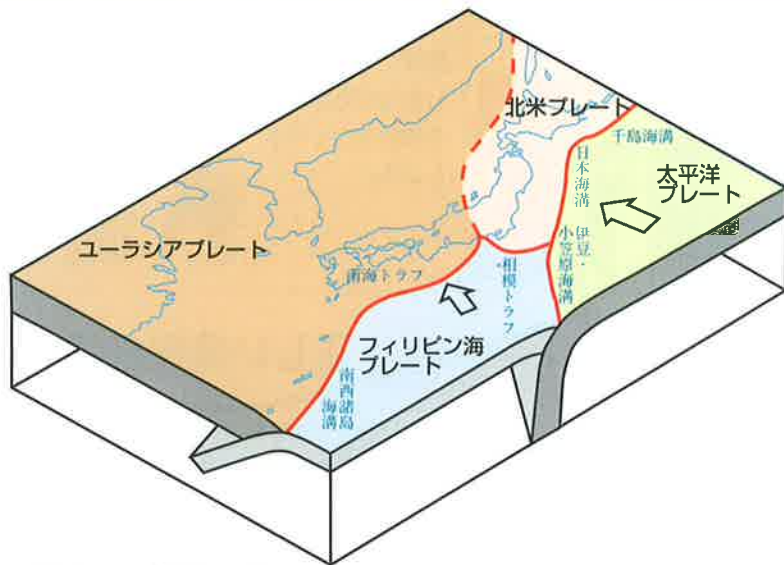
太平洋側で海洋プレートが陸のプレートの下に沈み込んでいるため、日本列島には東-西方向ないし、南東-北西方向に強い圧縮の力がかかっています。この海洋プレートの沈み込みと、それに伴う陸地の圧縮により、日本各地でさまざまな地震が発生するのです。

### ●南関東直下のプレート構造と発生する地震タイプ



- ① プレート境界部の海溝で発生する巨大地震
- ①' その他プレート境界で発生する地震
- ② プレート内で発生する地震
- ③ 内陸部の活断層を震源とする地震

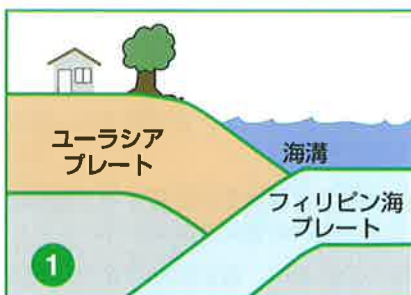
# 日本周辺のプレートと地震発生メカニズム



### ●日本周辺のプレート

日本の太平洋岸の海底では、海洋プレートが陸のプレートの下に沈み込んでおり、これらプレート境界では、プレート先端部が跳ね上がることで、マグニチュード8クラスの海溝型地震が発生することがあります。

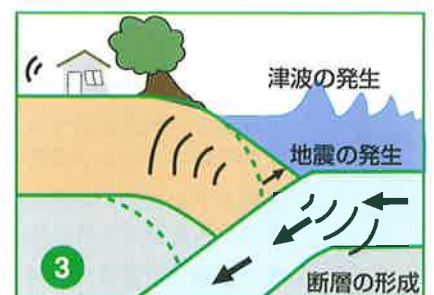
### ●海溝型地震の発生メカニズム



① 海側のプレートが年数cmの割合で陸側のプレートの方へ移動し、その下へ潜り込む。



② 陸側のプレートの先端部が引きずり込まれ、ひずみが蓄積する。



③ ひずみがある限界に達した時、陸側のプレートが跳ね上がり、地震が発生する。その際、津波が発生する場合がある。

# 地震への安全対策



地震から身を守る最大のポイントは、日頃の備えです。ケガや火災などの二次災害を引き起こさないためにも、いざという時の行動を確認しておきましょう。

## 1 まず身の安全を！

ケガをしたら火の始末や避難ができてしまいます。家具の転倒や落下物には十分な対策をとりましょう。



## 2 すばやく火の始末

揺れを感じたらすばやく行動しましょう。火元付近には燃えやすいものを置かない習慣をつけましょう。



## 3 戸を開けて出口の確保

震動でドアが開かなくなることがあります。戸を開けて避難口の確保をしましょう。



## 4 火が出たらすぐ消火

万が一出火しても、天井に燃え移る前なら大丈夫です。あわてず消火をしましょう。



## 5 あわてて外に飛び出さない

飛び出しはケガのもとです。冷静な判断をしましょう。



## 6 狭い路地やブロック塀には近づかない

ブロック塀や自動販売機は倒壊の恐れがあります。近づかないようにしましょう。



## 7 協力し合って応急救護

地域ぐるみで協力し合って応急救護の体制をつくりましょう。



## 8 山崩れ、がけ崩れに注意

居住地の自然環境を把握して二次災害防止を心掛けましょう。



## 9 避難は徒歩で

車での避難は危険なうえ緊急車両の障害になります。ルールを守る心のゆとりをもちましょう。



## 10 正しい情報を聞く

事実はひとつです。間違った情報にまどわされず的確な行動をとりましょう。



事例 1 地震発生と同時にタンスが倒れたが、寝室には大きな家具を置いてなかったため助かることができた。

ポイント

家具の転倒防止対策と、家の中に安全なスペースをつくるのが大切です。

事例 2 玄関ドアがゆがんで家の中に閉じ込められた。窓ガラスを割って外へ出ることができた。

ポイント

鉄製など頑丈な玄関ドアは注意が必要です。玄関以外からも脱出できる場所の確保が大切です。

事例 3 家の倒壊で下敷きになり、動くことができなかったが近所の人の協力で助け出された。

ポイント

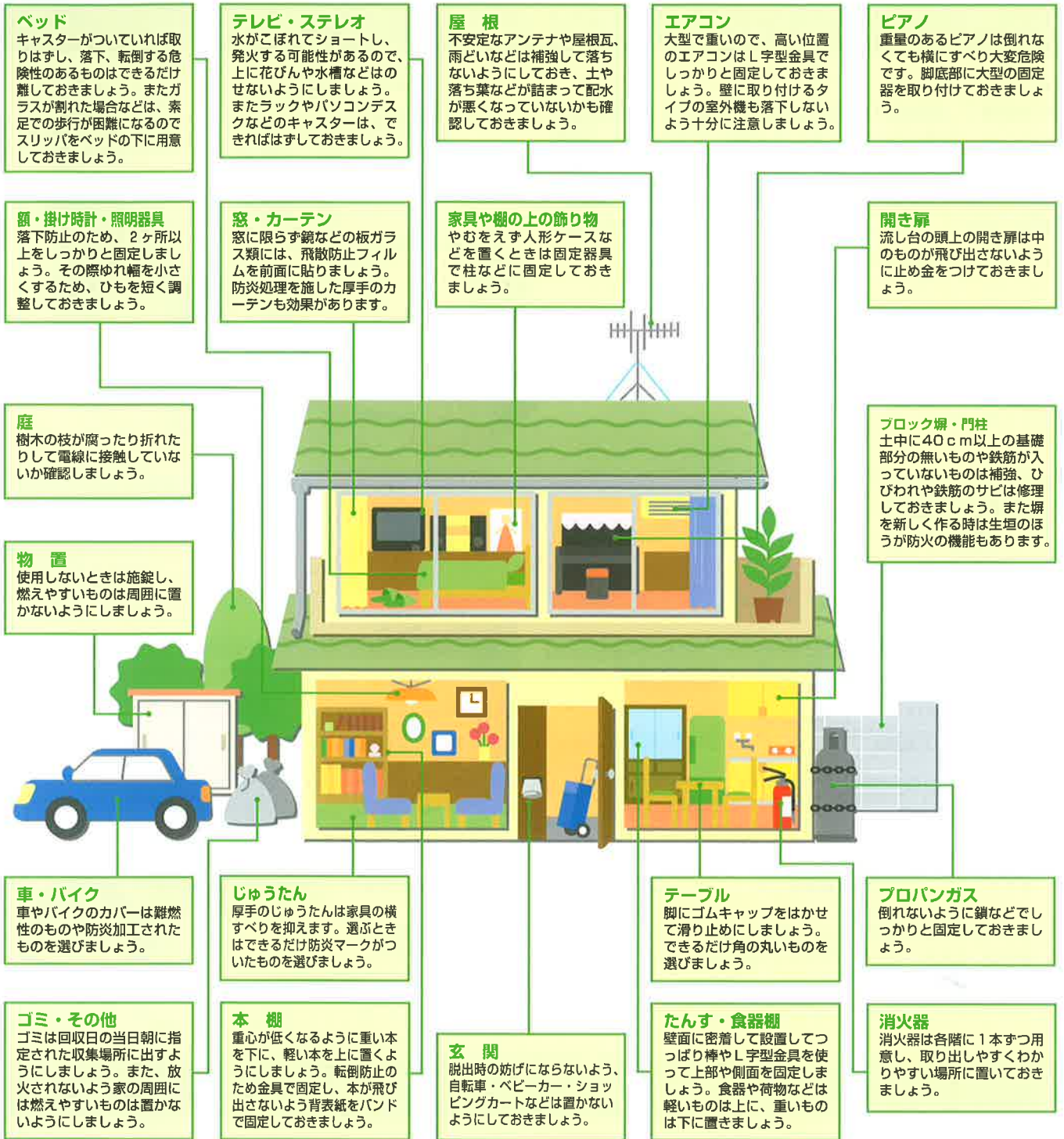
ふだんから地域とふれあい、互いに助け合う地域づくりが大切です。

事例 4 地震発生後、うわさや誤った情報が流れたが、ラジオからの情報で惑わされなかった。

ポイント

ラジオで正確な情報を得て行動することが大切です。

# 家庭内の防災チェック



## 放火に注意!! 放火による火災が増えています。

### ●放火はこんなところに

○ゴミステーション ○物置や空家など ○工事  
中の建築物 ○家と家の隙間空間 ○店舗のバックヤード・単車カバー

### ●放火できなかった理由

逮捕された放火犯の証言では放火ができなかった例として以下の3点が挙げられました。

1. 明るかった
2. パトロールしていた
3. 家の周りに燃やすものがなかった



家の周囲には燃えやすいものは置かないようにしましょう。

# 風水害について

## 集中豪雨に注意

集中豪雨は、短時間のうちに狭い地域に集中して降る豪雨のことで、梅雨の終わりごろによく起こります。狭い地域に限られ突発的に降るため、予期は比較的困難です。小中河川の氾濫や土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害が予想されます。がけ付近や造成地、扇状地などは気象情報に十分注意し万全な対策をとるようにしましょう。



**大雨情報をキャッチしたら、我が家で安全対策を始めましょう。**

### 大雨注意報・警報の発表基準

#### 大雨注意報

大雨によって災害が起こるおそれがあると予測される場合。具体的には次の条件に該当する場合です。

- 1時間に雨量が30mm又は以上になると
- 3時間に雨量が50mm又は以上になると
- 24時間に雨量が100mm以上になると

#### 大雨警報

大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予測される場合。具体的には次の条件に該当する場合です。

- 1時間雨量が60mm又は以上になると
- 3時間雨量が100mm又は以上になると
- 24時間雨量が250mm以上になると

### 風の強さと吹き方

| 平均風速 (m/s) | 予報用語        | 人への影響                | 屋外・樹木の様子               | 運送物の被害                            |
|------------|-------------|----------------------|------------------------|-----------------------------------|
| 10~15      | やや強い風       | 風に向かって歩きにくくなる。       | 樹木全体が強れる。電線が鳴る。        | 取り付けの不完全な看板やトタン板が飛び始める。           |
| 15~20      | 強い風         | 風に向かって歩けない。転倒する人もでる。 | 小枝が折れる。                | ビニールハウスが壊れ始める。                    |
| 20~25      | 非常に強い風 (暴風) | しっかりと身体を確保しないと転倒する。  | 樹木が根こそぎ倒れ始める。          | 網製シャッターが壊れ始める。風で飛ばされた物でガラスが割れる。   |
| 25~30      |             | 立ってられない。屋外での行動は危険。   |                        | ブロック塀が壊れ、取り付けの不完全な屋外装材がはがれ、飛び始める。 |
| 30~        | 猛烈な風        |                      | 屋根が飛ばされたり、木造住宅の全壊が始まる。 |                                   |

### 雨の強さと降り方

| 1時間雨量 (mm) | 予報用語    | 人の受けるイメージ               | 災害発生状況                               |
|------------|---------|-------------------------|--------------------------------------|
| 10~20      | やや強い雨   | ザーザーと降る。                | この程度の雨でも長く続くときは注意が必要。                |
| 20~30      | 強い雨     | どしゃ降り。                  | 側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる。          |
| 30~50      | 激しい雨    | バケツをひっくり返したように降る。       | 山崩れ・崖崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。      |
| 50~80      | 非常に激しい雨 | 滝のように降る。                | マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。 |
| 80~        |         | (ゴーゴーと降り続く。)            |                                      |
|            | 猛烈な雨    | 息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。 | 雨による大規模な災害が発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。      |

- ラジオやテレビなどで気象情報にはくれぐれも注意をする。
- 町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 非常持出品を準備しておく。

- 外出からは早く帰宅し、勤務先の家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 浸水に備えて家財道具は安全な場所へ。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 危険な土地はいつでも避難できるよう準備をする。

つねに気象情報には、注意しておきましょう！



## 洪水になったときの歩き方



● 歩ける深さは男性で約70cm、女性で約50cm。水深が腰まであるようなら無理は禁物です。高所で救助を待ちましょう。



● 水面下にはどんな危険が潜んでいるかわからないので、長い棒を杖代わりにして安全を確認しながら歩きます。



● 裸足、長靴は禁物。ひもで締められる運動靴がよいでしょう。



● はぐれないようお互いの身体をロープで結んで避難しましょう。とくに子どもから目を離さないように！



● お年寄りや身体の不自由な人などは背負いましょう。幼児は浮き袋、乳児はベビーバスを利用して安全を確保して避難します。

# 土砂災害について

土砂災害は、最も注意しなければなりません。普段と変わった現象が見られたらすぐ避難を！

## 土砂災害の種類

### がけ崩れ



- がけに割れ目が見える
- がけから小石がパラパラと落ちる
- 斜面がはらみだす
- 表面流がおこる
- がけから水が噴出する
- 湧水が濁りだす
- 樹木が傾く
- 樹木の根が切れる音をする
- 地鳴りがする

### 土石流



- 溪流付近の斜面が崩れだす
- 落石がおこる
- 川の水が異常に濁る
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる
- 土砂の流出
- 地鳴りがする
- 山鳴りがする
- 転石のぶつかり合う音
- 腐った土の臭いがする

### 地すべり



- 地面にひび割れができる
- 地面の一部が落ち込んだり盛り上がった
- 沢や井戸の水が濁る
- 斜面から水が噴き出す
- 池や沼の水かさが急減する
- 樹木が傾く
- 擁壁に亀裂が入り、電柱が傾く
- 樹木の根の切れる音をする

● このような現象を見かけたら、役場等、防災関係機関に連絡して、早めの避難を心がけてください。

● 避難勧告などが発令された場合、直ちに避難しましょう。

## 土砂災害警戒情報

大雨により土砂災害の危険度が高まった市区町村を特定し、各都道府県と気象庁が共同して発表する情報で、以下のサイトでも情報を入手できます。

埼玉県河川砂防 防災情報システム

<http://micos-sa.jwa.or.jp/metro/saitama/dosya>

熊谷地方气象台

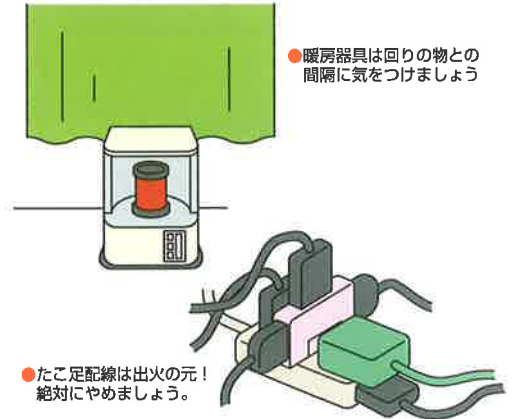
<http://www.tokyo-jma.go.jp/home/kumagaya>

# 火災について

## リビング

住宅火災で最も多い出火場所が居室です。

- 灰皿にはいつも水を入れておき、吸殻は溜めずにこまめに捨てましょう。
- ストープのまわりは、前面1m以上、横・後15cm以上、上部1m以上あけておき、カーテンや家具・スプレー缶などを近づけないようにしましょう。
- 部屋に誰もいない時は、ストーブを必ず消しましょう。
- 石油ストーブは確実に火が消えてから給油しましょう。
- 電気のコードをカーペットや家具などの下敷きにしないようにしましょう。
- たこ足配線はしないようにしましょう。
- 内装材には、火を広げにくい不燃性のものを使いましょう。できるだけ不燃性の壁紙などを使って、壁や天井、出入口などを燃えにくい構造にしましょう。



## 台所

食事の準備をする時間帯に火災が多く発生しています。

- コンロのそばを離れる時は、必ず火を消しましょう。
- コンロまわりはいつも整理整頓し、古くなってひびの入ったガスホースは交換しましょう。
- コンロは壁から離しておきましょう。ガスコンロが近づきすぎるとまわりの壁が燃えだすことがあります。
- 天ぷら油の加熱に注意をしましょう。天ぷら油は高温になると火種がなくても発火し、燃えだします。
- ガス栓にヒューズコックを付けましょう。ガス管が抜けた場合も安心です。
- 住宅用消火器はいつも取りやすい場所におき、以下のことに注意しましょう。
  - 1.5m以下の低い場所に置く。
  - 水や油で濡れる位置に置かない。
  - 使い方を訓練しましょう。



## 寝室

ふとんに火がついた火災で多くの方が亡くなっています。

- 寝たばこは絶対にしないようにしましょう。
- 暖房器具の整備点検をしましょう。片付ける時は、灯油や乾電池を抜き取りましょう。
- ストープをつけたまま寝ないでください。
- こたつの中に洗濯物を干さないようにしましょう。
- コードを引っ張って抜かないでください。
- 器具にあった電球のワット数を使いましょう。
- 避難の経路はいつも整理整頓しておき、万一の火災にもスムーズに避難できるようにしておきましょう。

